

表4. 子どもの事故と性格（総数）

性格	A C	B D	オッズ比	95%信頼限界	有意差	×2値
興奮しやすい	1,255 1,292	4,581 9,602	2.04	1.87-2.22	***	273.15
自己主張が強い	1,567 984	7,486 6,713	1.43	1.31-1.56	***	65.63
好奇心が旺盛	1,821 728	8,973 5,221	1.46	1.33-1.60	***	63.43
年令のわりに幼稚	998 1,545	4,604 9,596	1.35	1.23-1.47	***	44.78
人の話を聞かない	1,049 1,495	4,299 9,911	1.62	1.48-1.76	***	119.22
衝動的	970 1,580	3,266 10,953	2.06	1.88-2.25	***	259.30
感情的	1,166 1,385	4,684 9,539	1.71	1.57-1.87	***	154.86
乱暴	674 1,873	2,431 11,790	1.75	1.58-1.93	***	125.02
人見知りをしない	1,186 1,363	6,235 7,993	1.12	1.03-1.21	*	6.31
攻撃的	601 1,940	2,257 11,953	1.64	1.48-1.82	***	91.39
親が子を甘やかしている	785 1,754	4,192 9,979	1.07	0.97-1.17	NS	1.77
言葉で他人を傷つける	526 2,024	2,064 12,151	1.53	1.38-1.70	***	61.28
ケンカ好き	416 2,133	1,472 12,742	1.69	1.50-1.90	***	76.33
親は子を頻繁に干渉する	433 2,111	1,993 12,192	1.25	1.12-1.41	***	15.11
反抗力が強い	587 1,961	2,525 11,680	1.38	1.25-1.53	***	39.21
養育者との関係がよい	2,075 441	12,070 2,041	0.80	0.71-0.89	***	15.54
性別（男）	1,620 925	7,340 6,854	1.64	1.50-1.78	***	123.25

a 要因あり、事故あり
 b 要因あり、事故なし
 c 要因なし、事故あり
 d 要因なし、事故なし
 *** p<0.001
 ** p<0.01
 * p<0.05
 NS 有意差なし

表5. 子どもの事故と性格 (2歳)

性格	A	B	オッズ比	95%信頼限界	有意差	X ² 値
	C	D				
興奮しやすい	183	805	1.69	13.6-2.11	***	21.32
	185	1,377				
自己主張が強い	266	1,421	1.39	1.09-1.77	**	6.75
	103	765				
好奇心が旺盛	264	1,485	1.18	0.92-1.50	NS	1.59
	105	696				
年令のわりに幼稚	116	616	1.17	0.92-1.48	NS	1.50
	252	1,565				
人の話を聞かない	143	649	1.50	1.19-1.89	***	11.84
	225	1,534				
衝動的	154	605	1.88	1.50-2.36	***	29.55
	214	1,580				
感情的	178	821	1.54	1.24-1.93	***	14.43
	191	1,360				
乱暴	107	439	1.63	1.27-2.09	***	14.63
	261	1,747				
人見知りをしない	154	856	1.12	0.89-1.40	NS	0.81
	215	1,333				
攻撃的	93	442	1.34	1.04-1.73	*	4.71
	273	1,740				
親が子を甘やかしている	136	746	1.13	0.90-1.43	NS	1.03
	231	1,437				
言葉で他人を傷つける	26	116	1.36	0.87-2.11	NS	1.54
	342	2,070				
ケンカ好き	44	192	1.41	0.99-1.99	NS	3.36
	324	1,989				
親は子を頻繁に干渉する	58	280	1.19	0.87-1.63	NS	0.97
	309	1,902				
反抗力が強い	100	540	1.14	0.89-1.46	NS	0.93
	266	1,637				
養育者との関係がよい	317	1,885	0.95	0.68-1.31	NS	0.07
	50	281				
性別 (男)	246	1,156	1.79	1.42-2.26	***	23.91
	122	1,026				

a 要因あり、事故あり
 b 要因あり、事故なし
 c 要因なし、事故あり
 d 要因なし、事故なし
 *** p<0.001
 ** p<0.01
 * p<0.05
 NS 有意差なし

表6. 子どもの事故と性格 (3歳)

性格	A	B	オッズ比	95%信頼限界	有意差	×2値
	C	D				
興奮しやすい	257	1,092	2.06	1.71-2.49	***	57.39
	252	2,205				
自己主張が強い	318	1,946	1.14	0.94-1.38	NS	1.72
	193	1,349				
好奇心が旺盛	368	2,132	1.41	1.15-1.73	**	10.49
	143	1,169				
年令のわりに幼稚	205	1,037	1.43	1.22-1.79	**	15.57
	303	2,263				
人の話を聞かない	198	982	1.51	1.24-1.83	***	17.00
	311	2,323				
衝動的	191	795	1.88	1.55-2.29	***	40.20
	321	2,515				
感情的	238	1,136	1.68	1.39-2.02	***	28.87
	272	2,177				
乱暴	125	613	1.42	1.14-1.77	**	9.63
	386	2,696				
人見知りをしない	218	1,383	1.14	0.86-1.25	NS	0.11
	293	1,928				
攻撃的	122	568	1.52	1.22-1.90	***	13.29
	387	2,739				
親が子を甘やかしている	168	1,068	1.03	0.85-1.26	NS	0.07
	338	2,219				
言葉で他人を傷つける	84	386	1.49	1.16-1.93	**	9.05
	426	2,925				
ケンカ好き	66	368	1.19	0.90-1.57	NS	1.25
	445	2,942				
親は子を頻繁に干渉する	87	429	1.38	1.07-1.77	*	5.85
	424	2,876				
反抗力が強い	129	669	1.33	1.07-1.65	*	6.32
	383	2,638				
養育者との関係がよい	424	2,841	0.77	0.60-0.99	*	3.84
	86	444				
性別 (男)	292	1,690	1.32	1.09-1.59	**	7.98
	215	1,617				

a 要因あり、事故あり
b 要因あり、事故なし
c 要因なし、事故あり
d 要因なし、事故なし
*** p<0.001
** p<0.01
* p<0.05
NS 有意差なし

表7. 子どもの事故と性格 (4歳)

性格	A	B	オッズ比	95%信頼限界	有意差	×2値
	C	D				
興奮しやすい	328	1,036	2.32	1.96-2.75	***	96.97
	328	2,402				
自己主張が強い	396	1,701	1.55	1.31-1.84	***	25.58
	261	1,741				
好奇心が旺盛	442	2,086	1.34	1.12-1.59	**	10.05
	215	1,355				
年令のわりに幼稚	283	1,171	1.47	1.24-1.75	***	19.85
	373	2,276				
人の話を聞かない	268	1,007	1.68	1.41-1.99	***	34.64
	387	2,440				
衝動的	258	728	2.41	2.02-2.88	***	98.42
	399	2,717				
感情的	308	1,063	1.98	1.67-2.35	***	63.52
	349	2,389				
乱暴	177	554	1.93	1.59-2.34	***	43.89
	480	2,895				
人見知りをしない	292	1,441	1.12	0.95-1.33	NS	1.74
	362	2,008				
攻撃的	149	461	1.90	1.55-2.32	***	37.27
	507	2,985				
親が子を甘やかしている	207	1,020	1.10	0.91-1.31	NS	0.89
	449	2,423				
言葉で他人を傷つける	145	522	1.58	1.29-1.95	***	18.79
	513	2,925				
ケンカ好き	107	329	1.84	1.45-2.33	***	25.65
	550	3,116				
親は子を頻繁に干渉する	108	503	1.12	0.89-1.41	NS	0.84
	548	2,942				
反抗力が強い	130	517	1.40	1.13-1.73	**	9.19
	527	2,931				
養育者との関係がよい	536	2,904	0.88	0.70-1.10	NS	1.13
	110	524				
性別 (男)	409	1,778	1.56	1.32-1.86	***	25.72
	245	1,664				

a 要因あり、事故あり

b 要因あり、事故なし

c 要因なし、事故あり

d 要因なし、事故なし

*** p<0.001

** p<0.01

* p<0.05

NS 有意差なし

表8. 子どもの事故と性格 (5歳)

性格	A	B	オッズ比	95%信頼限界	有意差	×2値
	C	D				
興奮しやすい	302	1,084	2.05	1.73-2.43	***	67.83
	328	2,412				
自己主張が強い	374	1,579	1.78	1.50-2.11	***	43.01
	256	1,922				
好奇心が旺盛	462	2,103	1.84	1.52-2.22	***	39.71
	167	1,395				
年令のわりに幼稚	263	1,270	1.26	1.06-1.50	**	6.79
	365	2,226				
人の話を聞かない	286	1,142	1.72	1.45-2.04	***	37.98
	344	2,359				
衝動的	226	780	1.95	1.63-2.34	***	52.88
	404	2,722				
感情的	278	1,126	1.66	1.40-1.97	***	33.19
	353	2,375				
乱暴	161	556	1.82	1.49-2.22	***	34.17
	469	2,945				
人見知りをしない	320	1,699	1.09	0.92-1.29	NS	0.95
	311	1,803				
攻撃的	145	526	1.69	1.38-2.09	***	24.67
	484	2,975				
親が子を甘やかしている	183	949	1.10	0.91-1.33	NS	0.91
	445	2,540				
言葉で他人を傷つける	157	643	1.47	1.21-1.80	***	14.25
	473	2,857				
ケンカ好き	115	385	1.81	1.44-2.27	***	25.81
	515	3,118				
親は子を頻繁に干渉する	114	528	1.23	0.99-1.54	NS	3.23
	517	2,957				
反抗力が強い	136	530	1.54	1.25-1.90	***	15.75
	495	2,969				
養育者との関係がよい	501	2,924	0.81	0.65-1.00	NS	0.81
	117	550				
性別 (男)	417	1,785	1.88	1.57-2.25	**	48.65
	212	1,706				

a 要因あり、事故あり

b 要因あり、事故なし

c 要因なし、事故あり

d 要因なし、事故なし

*** p<0.001

** p<0.01

* p<0.05

NS 有意差なし

表9. 子どもの事故と性格 (6歳)

性格	A	B	オッズ比	95%信頼限界	有意差	×2値
	C	D				
興奮しやすい	185	559	2.01	1.61-2.52	***	37.44
	198	1,203				
自己主張が強い	212	836	1.36	1.11-1.72	**	7.83
	171	931				
好奇心が旺盛	284	1,162	1.50	1.17-1.93	**	9.96
	98	603				
年令のわりに幼稚	131	505	1.31	1.03-1.65	*	4.68
	251	1,263				
人の話を聞かない	154	515	1.65	1.31-2.07	***	18.00
	227	1,251				
衝動的	141	355	2.39	1.84-2.96	***	49.29
	241	1,414				
感情的	163	533	1.72	1.37-2.15	***	21.59
	220	1,235				
乱暴	104	267	2.12	1.63-2.75	***	32.08
	276	1,501				
人見知りをしない	201	851	1.19	0.95-1.49	NS	2.24
	182	918				
攻撃的	92	257	1.88	1.43-2.46	***	20.72
	288	1,509				
親が子を甘やかしている	91	403	1.06	0.81-1.37	NS	0.12
	290	1,358				
言葉で他人を傷つける	114	397	1.46	1.14-1.86	**	8.71
	269	1,366				
ケンカ好き	84	196	2.26	1.70-3.00	***	31.96
	298	1,571				
親は子を頻繁に干渉する	66	249	1.26	0.95-1.73	NS	2.46
	312	1,511				
反抗力が強い	92	269	1.77	1.35-2.32	***	17.18
	289	1,497				
養育者との関係がよい	296	1,508	0.61	0.46-0.81	***	11.35
	78	242				
性別 (男)	251	926	1.73	1.37-2.18	***	21.51
	131	837				

a 要因あり、事故あり
b 要因あり、事故なし
c 要因なし、事故あり
d 要因なし、事故なし
*** p<0.001
** p<0.01
* p<0.05
NS 有意差なし

表10. 年齢別にみた子どもの事故と性格

性格	2歳			3歳			4歳			5歳			6歳			総数		
	オッズ比	有意差	×2値	オッズ比	有意差	×2値	オッズ比	有意差	×2値	オッズ比	有意差	×2値	オッズ比	有意差	×2値	オッズ比	有意差	×2値
興奮しやすい	1.69	***	21.32	2.06	***	57.39	2.32	***	96.97	2.05	***	67.83	2.01	***	37.44	2.04	***	273.15
自己主張が強い	1.39	**	6.75	1.14	NS	1.72	1.55	***	25.58	1.78	***	43.01	1.36	**	7.83	1.43	***	65.63
好奇心が旺盛	1.18	NS	1.59	1.41	**	10.49	1.34	**	10.05	1.84	***	39.71	1.50	**	9.96	1.46	***	63.43
年令のわりに幼稚	1.17	NS	1.50	1.43	**	15.57	1.47	***	19.85	1.26	**	6.79	1.31	*	4.68	1.35	***	44.78
人の話を聞かない	1.50	***	11.84	1.51	***	17.00	1.68	***	34.64	1.72	***	37.98	1.65	***	18.00	1.62	***	119.22
衝動的	1.88	***	29.55	1.88	***	40.20	2.41	***	98.42	1.95	***	52.88	2.39	***	49.29	2.06	***	259.30
感情的	1.54	***	14.43	1.68	***	28.87	1.98	***	63.52	1.66	***	33.19	1.72	***	21.59	1.71	***	154.86
乱暴	1.63	***	14.63	1.42	**	9.63	1.93	***	43.89	1.82	***	34.17	2.12	***	32.08	1.75	***	125.02
人見知りをしない	1.12	NS	0.81	1.14	NS	0.11	1.12	NS	1.74	1.09	NS	0.95	1.19	NS	2.24	1.12	*	6.31
攻撃的	1.34	*	4.71	1.52	***	13.29	1.90	***	37.27	1.69	***	24.67	1.88	***	20.72	1.64	***	91.39
親が子を甘やかしている	1.13	NS	1.03	1.03	NS	0.07	1.10	NS	0.89	1.10	NS	0.91	1.06	NS	0.12	1.07	NS	1.77
言葉で他人を傷つける	1.36	NS	1.54	1.49	**	9.05	1.58	***	18.79	1.47	***	14.25	1.46	**	8.71	1.53	***	61.28
ケンカ好き	1.41	NS	3.36	1.19	NS	1.25	1.84	***	25.65	1.81	***	25.81	2.26	***	31.96	1.69	***	76.33
親は子を頻繁に干渉する	1.19	NS	0.97	1.38	*	5.85	1.12	NS	0.84	1.23	NS	3.23	1.26	NS	2.46	1.25	***	15.11
反抗力が強い	1.14	NS	0.93	1.33	*	6.32	1.40	**	9.19	1.54	***	15.75	1.77	***	17.18	1.38	***	39.21
養育者との関係がよい	0.95	NS	0.07	0.77	*	3.84	0.88	NS	1.13	0.81	NS	0.81	0.61	***	11.35	0.80	***	15.54
別(男)	1.79	***	23.91	1.32	**	7.98	1.56	***	25.72	1.88	**	48.65	1.73	***	21.51	1.64	***	123.25

** p<0.001
 * p<0.01
 * p<0.05
 NS 有意差なし

子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究

地域子育て支援センターにおける
事故防止啓発指導の可能性についての検討

田中哲郎 国立保健医療科学院生涯保健部
石井博子 国立保健医療科学院生涯保健部
佐原康之 和歌山県福祉保健部

要旨

地域子育て支援センターから保護者に対して子どもの事故防止指導啓発の可能性について調査検討を行った。全国 2,368 ヶ所の地域子育て支援センターに依頼し、回答は 1,571 施設で回収率は 66.3%であった。センターの運営母体は保育所併設が 1,262 施設で 80%を越えていた。

現在実施している地域子育て支援センターの支援内容は①育児不安の相談・援助が 1,550 施設（98.7%）、②室内の遊び場の提供が 1,365 施設（86.9%）、③育児講座・講演会が 1,246 施設（79.3%）、④園庭開設が 1,221 施設（77.7%）、⑤絵本・図書・玩具などの提供が 1,214 施設（77.3%）などであった。

今後、地域子育て支援センターから地域の保護者に対して学習会や資料・情報提供していきたい内容としては、①事故防止が 846 施設（53.9%）、②ケガの手当や対応が 730 施設（46.5%）、③発育や発達に 738 施設（47.0%）などであった。

地域子育て支援センターにおいて、保護者に事故防止啓発を効果的に行うに際して必要とされるものについて、5段階で記入してもらった結果、①指導者用の指導マニュアルが 4.44、②保護者に配布するパンフレットが 4.42、③指導者用の研修会が 4.21、④講演会の講師派遣が 3.96、⑤インターネットでの事故防止関連の情報提供が 3.75 などであった。

今回の調査結果より、多くの地域子育て支援センターにおいて保護者への事故防止活動は重要と考えており、事故防止指導のマニュアルや教材、指導者用の研修会が開催されれば指導は可能と考えられ、保護者への事故防止啓発のための有力な手段になるものと考えられた。

はじめに

子どもの死因順位の第一位である事故を防止することは子どもの健全育成上最重要課題である。このため、厚生労働省の「健やか親子21」では不慮の事故の死亡率を半減、事故対策を実施している家庭の割合を100%、事故防止対策を実施している市町村の割合を100%にするなどの目標値をあげている。また、次世代育成支援対策推進法の行動計画策定指針においても「乳幼児健診の場を通じて、誤飲、転落、転倒、やけど等の子どもの事故の予防のための啓発等の取り組みを進めることが望ましい」とされ、健診の機会を利用して事故防止指導をすることが考えられている。しかし、健康診査時には身体測定、

内科診察、栄養指導など様々な指導を行う必要上、事故防止指導の必要性は理解されていても、時間的にまた人的にも十分な対応が難しいとの指摘がみられる。今後、健康診査内容を見直しすることが求められると考えられるが、同時に事故防止指導は発達の各段階において何回も啓発を繰り返すことにより効果があがるとも考えられ、保護者への啓発機会を出来る限り増やすことが望ましい。

以上のことより、保育園や幼稚園から保護者に事故防止を行うことが考えられている^{1)・2)}。しかし、全ての子どもが保育園に入園しているわけではないことより、地域の子どもの保護者に対して地域子育て支援センターから子どもの事故防止指導の啓発が考え

られるのではないかとされることより、その可能性について調査・検討を行った。

方法および対象

調査対象は全国の地域子育て支援センターとし、名簿は各都道府県に依頼し得られた2,368の地域子育て支援センターとした。調査は平成15年12月～16年1月に郵送により調査用紙に記入を依頼し匿名にて郵送により回収した。

結果

1. 回答数とその属性

1) 回答数

名簿の得られた地域子育て支援センター2,368ヶ所に依頼し、回答の得られたセンターは1,571施設で回収率は66.3%であった。

2) 地域子育て支援センターの運営

1,571施設の地域子育て支援センターの運営母体は保育所併設が1,262施設(80.3%)、児童館・幼稚園・保健所以外の公的施設に併設が122施設(7.8%)、専用施設が120施設(7.6%)、児童館併設が40施設(2.5%)、幼稚園併設が25施設(1.6%)、民間施設に併設が20施設(1.3%)などであった(表1)。

3) 設置年度

地域子育て支援センターの設置年度は平成0～1年度が3施設(0.2%)、平成2～3年度が3施設(0.2%)、平成4～5年度が31施設(2.0%)、平成6～7年度が87施設(5.5%)、平成8～9年度が173施設(11.0%)、平成10～11年度が326施設(20.8%)、平成12～13年度が484施設(30.8%)、平成14～15年度が417施設(26.5%)、不明が47施設(3.0%)であった(表2)。

2. 現在実施している支援内容

現在実施している地域子育て支援センターの支援内容は①育児不安の相談・援助が1,550施設(98.7%)、②室内の遊び場の提供が1,365施設(86.9%)、③育児講座・講演会が1,246施設(79.3%)、④園庭開放が1,221施設(77.7%)、⑤絵本・図書・玩具などの提供が1,214施設(77.3%)、⑥子育てサークル育成・支援が1,112施設(70.8%)、⑦子育て支援のための冊子やパンフレット

の発行が872施設(55.5%)、⑧健康相談・身体測定が665施設(42.2%)、⑨世代間交流が416施設(26.5%)、⑩ベビーシッター等の保育資源の情報提供が391施設(24.9%)、⑪家庭訪問・出張子育て支援が380施設(24.2%)、⑫子育てボランティアの育成が221施設(16.0%)、⑬家庭的保育の相談・巡回指導が72施設(4.6%)、その他が227施設(14.4%)であった(表3)。

3. 現在、保護者に対して学習会や資料・情報提供をしている内容

現在、子育て支援センターが保護者に対して学習会や資料、情報提供をしている内容は①遊びが1,210施設(77.0%)、②発育や発達に1,193施設(75.9%)、③栄養・食事に1,123施設(71.5%)、④しつけが936施設(59.6%)、⑤子どもの病気が924施設(58.8%)、⑥トイレトレーニングが687施設(43.7%)、⑦虫歯予防が648施設(41.2%)、⑧ケガの手当や対応が616施設(39.2%)、⑨事故防止が583施設(37.1%)、⑩心肺蘇生法が425施設(27.1%)、⑪予防接種が385施設(24.5%)、⑫アレルギーが319施設(20.3%)、⑬地震や災害の対応が177施設(11.3%)、⑭薬についてが80施設(5.1%)、その他が174施設(11.1%)などであった(表4)。

4. 今後、地域に対して学習会や資料・情報提供をしていきたい内容

今後、地域子育て支援センターから地域の保護者に対して学習会や資料・情報提供をしていきたい内容としては、①事故防止が846施設(53.9%)、②ケガの手当や対応が730施設(46.5%)、③発育や発達に738施設(47.0%)、④栄養・食事に704施設(44.8%)、⑤しつけが637施設(40.5%)、⑥遊びが635施設(40.4%)、⑦子どもの病気が623施設(39.7%)、⑧心肺蘇生法が523施設(33.3%)、⑨アレルギーが459施設(29.6%)、⑩虫歯予防が443施設(28.2%)、⑪トイレトレーニングが434施設(27.6%)、⑫地震や災害時の対応が404施設(25.7%)、⑬予防接種が296施設(18.8%)、⑭薬についてが248施設(15.8%)、その他が99施設(6.3%)であった(表5)。

5. 事故防止の情報提供の重要性についての考え方

地域子育て支援センターにおいて、保護者に対して事故防止の情報提供の重要性についての担当者の考え方は、大変重要を5、全く重要でないを1の5段階としての考え方は5が860施設(54.7%)、4が532施設(33.9%)、3が154施設(9.8%)、2が8施設(0.5%)、全く重要ではないの1が1施設(0.1%)、不明が16施設(1.0%)で、平均スコアは4.44で重要との考え方が多くみられた(表6)。

6. 事故防止啓発に必要とされるもの

地域子育て支援センターにおいて、保護者に事故防止啓発を容易に効果的に行うに際して必要とされるものについて、特に必要とされるものを5として、必要とされないものを1とする5段階で記入してもらった結果、①指導者用の指導マニュアルが4.44、②保護者に配布するパンフレットが4.42、③指導者用の研修会が4.21、④講演会の講師派遣が3.96、⑤インターネットでの事故防止関連の情報提供が3.75、⑥展示用事故防止グッズが3.62、⑦事故防止啓発ビデオが3.58、⑧事故防止啓発パネルやポスターが3.53であった(表7)。

7. 子育て支援センターでの事故防止啓発指導実施の場

子育て支援センターでの事故防止啓発指導をどの場面で行うのが望ましいかについて5段階評価の結果は①子育て講演会・育児講演会が4.46、②情報誌の発行が3.99、③遊びの中でが3.97、④子育てサークルでの指導が3.91、⑤育児相談の中でが3.91、⑥健康相談の中でが3.75、⑦家庭訪問が2.71であった(表8)。

8. 事故防止指導者の適任者

地域子育て支援センターにおける事故防止指導者の適任者は、①保育士が1,159名(73.8%)、②事故の専門家が933名(59.4%)、③保健師が772名(49.1%)、④看護師が419名(26.7%)、⑤嘱託医350名(22.3%)、⑥子育て経験者が345名(22.0%)、⑦親同士が324名(20.6%)、⑧幼稚園教諭が65名(4.1%)、その他が96名

(6.1%)などであった(表9)。

9. 事故防止研修会参加の有無

事故防止研修会に既に参加したことがあるかについては、参加したことがあるが553(35.2%)、参加したことがないが1,000名(63.7%)、不明が18名(1.1%)であった(表10)。

10. 事故防止研修会参加希望の有無

今後、事故防止研修会が開催された場合、参加の希望の有無については参加の希望ありが1,402名(89.2%)、参加の希望のないものが13名(0.8%)、わからないが139名(8.8%)、不明が18名(1.1%)であった(表11)。

11. 事故防止センターの必要性

事故防止情報や教材の開発、事故事例の収集・分析など事故防止支援センターの必要性については、必要ありが1,181名(75.2%)、必要なしが54名(3.4%)、わからないが314名(20.0%)。不明が22名(1.4%)であった(表12)。

12. 教材をインターネットでダウンロードするシステムがあれば利用するか

インターネットで教材を無料でダウンロードするシステムがあれば利用するかについては、利用するが1,280名(81.5%)、利用しないが37名(2.4%)、わからないが235名(15.0%)、不明が19名(1.2%)であった(表13)。

考察

子どもの事故は小児期の死因順位の第一位であり、その割合も1-4歳が23.5%、5-9歳が37.9%を占め³⁾、また、先進国の中では乳幼児の事故による死亡率は高いこと⁴⁾⁻⁶⁾が明らかになっており、その防止は子どもの健全育成上極めて重要な課題である。

このため、「健やか親子21」や次世代育成支援対策推進法の行動計画策定指針において取りあげられ、乳幼児健診等の場を通じて事故防止を啓発することが望ましいとされ、健診の場で指導することが考えられているが、健診においては種々な指導内容などがみられることより時間や人的に十分な指導す

ることが難しいとされている。また、事故防止は発達と密接な関係があり、一度だけの指導では十分に効果をあげることは難しく、多くの機会にくり返し啓発・指導していくことが望ましいとされる。このため、保育園や幼稚園から家庭への事故防止啓発が考えられている²⁾。しかし、全ての子どもが保育園に通園しているわけではないことより、地域子育て支援センターからも積極的に事故防止指導を行うことが望ましいと考えられたことより、現状とその可能性について検討を行った。

調査にあたり地域子育て支援センターの名簿がないことより、研究班より47都道府県に調査内容を示した上で依頼した結果、埼玉県を除く46都道府県の協力を得て名簿を入手し、郵送にて全国2,300余の地域子育て支援センターに記入を依頼し郵送にて回収する方法にて調査を実施した。

地域子育て支援センターの運営は約8割が保育所に併設され、8割が平成10年以降に開設され、歴史の浅いものが大多数であった。

現在実施されている主な支援内容は、育児不安の相談・支援が98.7%、室内遊びの場の提供が86.7%、育児講座・講演会が79.3%、園庭開放が77.7%、絵本・図書・玩具などの提供が77.3%、子育てサークルの育成・支援が70.8%などであった。

また、保護者に対する学習会や資料・情報については、遊びが77.0%、発育・発達が75.9%、栄養・食事が71.5%、しつけが59.6%、子どもの病気が58.8%、トイレトレーニングが43.7%、虫歯予防が41.2%、ケガの手当や対応が39.2%、事故防止が37.1%、心肺蘇生法が27.1%にみられていた。

また、今後行いたい情報提供としては事故防止が最も多く53.9%、ケガの手当や対応が46.5%みられており、事故防止の情報提供の重要性については5段階評価において4.44と多くの回答者が高い評価を行っていた。

実際に啓発するにあたって必要とするものとしては、指導者用の指導マニュアルを希望するものが最も多く、保護者に配布するパンフレット、指導者用研修会、講習会用の講師派遣、インターネットによる情報提供を必

要としていた。また、指導の場面は子育て講演や情報誌、遊びの中でと考える担当者が多く、事故の指導の適任者は保育士が3/4以上あげていた。

これらのことより、地域子育て支援センターにおいて指導用のマニュアルやパンフレットが確保され、指導者の研修会が行えれば、多くの地域子育て支援センターから保護者に事故防止啓発が可能と思われる。また、健診に比べ子育て支援センターでは指導の時間が十分に取れる可能性があり、充実した事故予防の啓発・指導が行えると考えられる。

これをより効果的にするためには、地域子育て支援センターをサポートするための事故防止指導サポートセンターを中央に設置し、事故事例の収集・分析・防止方法の検討・教材の開発などを行い、情報や教材をインターネット等を通じて発信していけばより効果的な事故防止が可能になり育児支援が可能になるものと考えられる。

おわりに

地域子育て支援センターから保護者へ事故防止啓発・指導が可能かについて調査研究を行った。

その結果、多くの施設において保護者への事故防止活動は重要と考えており、事故防止指導のマニュアルや教材、指導者用の研修会が開催されれば指導は可能と考えられた。更に、指導を効果的に行うためには、中央に事故事例の収集・分析・防止方法の検討を行う施設を設置し、教材等を配布することにより効果的に事故防止が行えると考えられた。

稿を終えるに当たり、調査に御協力を賜った全ての関係者に深謝します。

文献

- 1) 田中哲郎、石井博子：保育園における事故防止プログラムの開発. 平成11年度厚生省科学研究「小児の事故とその防止に関する研究」報告書. p350-356. 平成12年3月
- 2) 石井博子、田中哲郎：保育園における事故防止プログラムの開発. 保育と保健 (5) : 43-46. 2000
- 3) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成14年人口動態統計

- 4) 田中哲郎：小児期における不慮の事故死
についての国際比較. 日本医事新報
3359. 30. 1988
- 5) 田中哲郎、石井博子、向井田紀子他：不
慮の事故の国際比較. 厚生指標 46
(10). 12-17. 平成 11 年
- 6) 田中哲郎：新子どもの事故防止マニユ
アル改訂 3 版. 診断と治療社. 2003

表1. 子育て支援センターの運営母体

	実数	構成割合 (%)
保育所併設	1,262	80.3
その他の公的施設に併設	122	7.8
専用施設	120	7.6
児童館併設	40	2.5
幼稚園併設	25	1.6
民間施設併設	20	1.3
保健所併設	12	0.8
学校の余裕教室	8	0.5
その他	54	3.4
不明	10	0.6
総数	1,571	100.0

(複数回答)

表2. 設置年度

	実数	構成割合 (%)
平成0～1年度	3	0.2
平成2～3年度	3	0.2
平成4～5年度	31	2.0
平成6～7年度	87	5.5
平成8～9年度	173	11.0
平成10～11年度	326	20.8
平成12～13年度	484	30.8
平成14～15年度	417	26.5
不明	47	3.0
総数	1571	100.0

表3. 現在実施している支援内容

	実数	構成割合 (%)
育児不安の相談・援助	1,550	98.7
室内遊び場の提供	1,365	86.9
育児講座・講演会	1,246	79.3
園庭開放	1,221	77.7
絵本・図書・玩具などの提供	1,214	77.3
子育てサークル育成・支援	1,112	70.8
子育て支援のための冊子やパ ンフレットの発行	872	55.5
健康相談・身体測定	663	42.2
世代間交流	416	26.5
ベビーシッター等の保育資源 の情報提供	391	24.9
家庭訪問・出張子育て支援	380	24.2
子育てボランティアの養成	251	16.0
家庭的保育の相談・巡回指導	72	4.6
その他	227	14.4

(複数回答)

表4. 現在、保護者に対して学習会や資料・情報提供している内容

	実数	構成割合 (%)
遊び	1,210	77.0
発育・発達	1,193	75.9
栄養・食事	1,123	71.5
しつけ	936	59.6
子どもの病気	924	58.8
トイレトレーニング	687	43.7
虫歯予防	648	41.2
ケガの手当や対応	616	39.2
事故防止	583	37.1
心肺蘇生法	425	27.1
予防接種	385	24.5
アレルギー指導	319	20.3
地震や災害の対応	177	11.3
薬について	80	5.1
その他	174	11.1

(複数回答)

表5. 今後、地域に対して学習会や資料・情報提供していきたい内容

	実数	構成割合 (%)
事故防止	846	53.9
ケガの手当や対応	730	46.5
発育・発達	738	47.0
栄養・食事	704	44.8
しつけ	637	40.5
遊び	635	40.4
子どもの病気	623	39.7
心肺蘇生法	523	33.3
アレルギー指導	459	29.2
虫歯予防	443	28.2
トイレトレーニング	434	27.6
地震や災害の対応	404	25.7
予防接種	296	18.8
薬について	248	15.8
その他	99	6.3

(複数回答)

表6. 事故防止の情報提供の重要性についての考え方

		実数	構成割合 (%)
大変重要	5	860	54.7
↑	4	532	33.9
↕	3	154	9.8
↓	2	8	0.5
全く重要でない	1	1	0.1
不明		16	1.0
総数		1,571	100.0
スコアー		4.44	

表7. 事故防止啓発に必要とされるもの (N=1,571)

	スコア	←特に必要				必要と思わない→		
			5	4	3	2	1	不明
指導者用の指導マニュアル	4.44	実数	909	406	191	14	5	46
		(%)	57.9	25.8	12.2	0.9	0.3	2.9
保護者に配布するパンフレット	4.42	実数	872	472	198	7	3	19
		(%)	55.5	30.0	12.6	0.4	0.2	1.2
指導者用研修会	4.21	実数	671	537	267	24	12	60
		(%)	42.7	34.2	17.0	1.5	0.8	3.8
講演会の講師派遣	3.96	実数	508	521	404	49	21	68
		(%)	32.3	33.2	25.7	3.1	1.3	4.3
インターネットでの情報提供	3.75	実数	375	501	511	81	24	79
		(%)	23.9	31.9	32.5	5.2	1.5	5.0
展示用事故防止グッズ	3.62	実数	330	438	559	105	41	98
		(%)	21.0	27.9	35.6	6.7	2.6	6.2
事故防止の啓発ビデオ	3.58	実数	322	434	568	123	42	82
		(%)	20.5	27.6	36.2	7.8	2.7	5.2
事故防止啓発パネルやポスター	3.53	実数	275	443	602	125	40	86
		(%)	17.5	28.2	38.3	8.0	2.5	5.5

表8. 子育て支援センターでの事故防止啓発指導の実施の場 (N=1,571)

	スコア	←特に必要				必要と思わない→		
			5	4	3	2	1	不明
子育て講演会・育児講座	4.46	実数	777	520	211	14	1	48
		(%)	49.5	33.1	13.4	0.9	0.1	3.1
情報誌の発行	3.99	実数	496	557	397	34	15	72
		(%)	31.6	35.5	25.3	2.2	1.0	4.6
遊びの中で	3.97	実数	497	535	389	42	21	87
		(%)	31.6	34.1	24.8	2.7	1.3	5.5
子育てサークルの中で	3.91	実数	438	547	406	38	27	115
		(%)	27.9	34.8	25.8	2.4	1.7	7.3
育児相談の中で	3.91	実数	455	534	426	48	23	85
		(%)	29.0	34.0	27.1	3.1	1.5	5.4
健康相談の中で	3.75	実数	330	508	523	58	19	133
		(%)	21.0	32.3	33.3	3.7	1.2	8.5
家庭訪問	2.81	実数	78	200	586	221	260	226
		(%)	5.0	12.7	37.3	14.1	16.5	14.4

表9. 事故防止指導者の適任者

	実数	構成割合(%)
保育士	1159	73.8
専門家	933	59.4
保健師	772	49.1
看護師	419	26.7
嘱託医	350	22.3
子育て経験者	345	22.0
親同士	324	20.6
幼稚園教諭	65	4.1
その他	96	6.1

(複数回答)

表10. 事故防止研修会に参加の有無

	実数	構成割合(%)
参加している	553	35.2
参加していない	1000	63.7
不明	18	1.1
総数	1,571	100.0

表11. 事故防止研修会への参加希望

	実数	構成割合(%)
希望あり	1,402	89.2
希望なし	13	0.8
わからない	139	8.8
不明	18	1.1
総数	1,571	100.0

表12. 事故防止センターの必要性

	実数	構成割合(%)
必要	1,181	75.2
必要ない	54	3.4
わからない	314	20.0
不明	22	1.4
総数	1,571	100.0

表13. 教材をインターネットでダウンロードするシステムがあれば利用するか

	実数	構成割合(%)
利用する	1,280	81.5
利用しない	37	2.4
分からない	235	15.0
不明	19	1.2
総数	1,571	100.0

子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究

子どもの事故防止活動に関する保健師への意識調査結果

分担研究者 長村敏生 京都第二赤十字病院小児科副部長
清沢伸幸 京都第二赤十字病院小児科部長
澤田 淳 京都第二赤十字病院院長

研究要旨：京都府内で母子保健業務に携わっている保健師 272 名（全員女性、22~60 歳、平均 37.2 歳）を対象に子どもの事故防止活動に関する意識調査を行った。健診での指導必要度が高かったのは事故防止指導と発達のチェックで、96.9%が防止指導を健診で行うべきと答えたが、保育士やボランティアとの連携への期待も高かった。指導手段では講習会形式と安全チェックリストの使用が上位に支持された。課題として効果的な指導方法、一般市民の事故防止の重要性に対する認識度の改善、正確な事故データの蓄積への要望が強く、89.9%が指導方法を学ぶための研修会参加を希望していた。今後の事故対策推進には事故防止センターが不可欠である。

A. 研究目的

厚生労働省が 2000 年に策定した「健やか親子 21」において、2010 年までに達成すべき目標として、わが国の事故死亡率を半減すること、事故防止対策をすべての家庭で実施すること、すべての市町村が事故対策を実施することが挙げられている。また、1997 年より母子保健法の改正によって身近な保健サービスである乳幼児健診の実施主体は市町村に一元化され、子どもの事故防止の主導は都道府県および都道府県の保健所が行い、事故防止指導の実働は市町村の保健師が実施することになった。

しかし、2001 年に行われた全国調査では積極的に事故防止対策を行っている市町村は 3~4 か月健診で 33.2%、1 歳 6 か月健診では 29.2% にすぎなかった¹⁾。さらに、2003 年に行われた 797 の都道府県・市区町村を対象にした調査でも子どもの事故防止対策協議会が設置（予定を含む）されていたのは 3 都道府県と 24 市区町村にとどまり、自治体における事故防止の体制はなお未整備である現状が示された²⁾。

そこで、今回我々は市町村における子どもの事故防止活動の効果的なあり方について検討するため、京都府内の保健師の事故防止活動に対する意識調査を行ったので報告する。

B. 研究方法

対象は京都府内で母子保健業務に携わっている保健師 272 名（全員女性）で、2003 年 11~12 月に無記名アンケート用紙への記入を依頼した。対象の所属は京都市 135 名（46.9%）、京都府 77 名（28.3%）、府下の市町村 60 名（22.1%）

であり、年齢は 22~60 歳（平均年齢±標準偏差は 37.2±8.5 歳）であった。無回答例を除くと、対象の 59.6%は子育ての経験があり、97.4%は子どもの最大死因が事故であることを知っており、91.8%が乳幼児健診における事故防止の指導経験を有していた（表 1）。

C. 研究結果

乳幼児健診における指導内容のうち母子手帳に記載されている 9 項目について、その必要度を是非必要（4 点）、必要（3 点）、あまり必要はない（2 点）、必要ない（1 点）の 4 つの選択肢の中から回答してもらい、項目毎にスコアの平均値を算出し、表 2 に平均スコアの高い順に示した。9 項目中 8 項目が平均スコア 3.00 以上で必要と判断されていたが、中でも平均スコアが最も高かったのは子どもの事故防止の指導であり、次いで発達（精神・行動・言語）のチェックの順になっていた。さらに、表 1 に示したように未記入例を除く 96.9%が保護者への事故防止指導は乳幼児健診で行うべきであると答え、健診で事故防止指導を行うのにふさわしい時期（重複回答あり）は 8~10 か月（85.3%）、3~4 か月（67.2%）、1 歳 6 か月（52.9%）、3 歳（30.5%）の順になっていた。また、実施回数としては 2 回行うべきという回答が最も多く（35.1%）、2 回行うべきと答えた者の 65.9%（91 名中 60 名）が 3~4 か月と 8~10 か月の組み合わせを選んでいった。

保護者への事故防止の指導手段 10 項目に関して 4 段階評価（非常に有用、有用、あまり有用でない、有用でない）で選択された回答をス

コア化し、項目毎に算出した平均スコアを高い順に表3に示した。10項目中5項目が平均スコア3.00以上で有用との評価が多かったが、その順位は①講習会形式（心肺蘇生法、チャイルドシート使用法、応急手当など）、②安全チェックリスト、③パンフレット、④ビデオ、⑤教材（小冊子、絵本）の順になっており、特に上位2項目の支持が高かった。

次に、今後事故防止指導を推進していく上での検討課題について意見を求めた。先と同様に、改善が是非必要を1点、改善が必要を2点、あまり問題はないを3点、満足しているを4点として項目毎の平均スコアを現状に対する満足度とし、満足度が低く改善の必要性が高いものから順に表4に示した。全9項目とも平均スコア3.00以下で満足度は低かったが、特に上位5課題はいずれもスコア2.00未満で、①効果的な指導法（ノウハウ）の開発、②一般市民の事故防止の重要性に対する認識、③子どもの事故の実態に関する正確なデータの順に要望が多かった。一方、未記入例を除いた対象の89.9%が事故防止指導方法を学ぶための研修会への参加を希望し、92.2%が指導用教材のインターネットでの公開を歓迎し、保護者向けに携帯電話による文字情報サービス（iモード）で情報提供することについては82.8%が賛成していた（表1）。

乳幼児健診以外に事故防止指導を行う場所（12項目）についても4段階評価で得た回答をスコア化し、平均スコアの高い順に表5に示した。9項目までが平均スコア3.00以上の支持を得ていたが、上位3項目は①保健所で行う育児支援行事（育児相談、保健教室など）、②子育て支援センター（保育所）、③子育てに関係する公共施設であった。

保護者に事故防止指導を行う指導者（10項目）についても同様に平均スコアの高い順に表6に示した。9項目までが平均スコア3.00以上の支持を得ていたが、上位3項目は①事故防止の講習を受けて指導員の資格をもつ保健師、②救急隊員、③保育士であった。また、事故防止の講習を受けて指導員の資格をもつボランティアが4位、保健師が6位、事故防止の活動経験をもつボランティアは9位であった。他方、保健所の事故防止指導に活動経験をもつボランティアが参加することに賛成の者（未記入例は除く）は48.9%だったが、講習を受けて指導員の資格をもつボランティアの参加であれば60.2%が賛成していた（表1）。

D. 考察

今回対象となった保健師は97.4%（未記入例

は除く、%表示については以下同様）が子どもの最大死因を知っていたことから、子どもの事故防止の重要性をよく認識していたと考えられた。さらに、91.8%が乳幼児健診における事故防止の指導経験を持っていたことより、今回の回答には健診の現場で直接保護者への事故防止指導にあたっている保健師の意見が反映されているものと考えられた。その結果、乳幼児健診における指導内容の中で最も必要度が高かったのは子どもの事故防止の指導であり、96.9%の保健師が事故防止の指導は健診で行うべきであると回答していた。わが国では健診受診率が高率であり、健診が発達の節目に行われる³⁾ことから、乳幼児健診は保護者に事故防止指導を行う場合の最も適した機会の一つと考えられた。

事故防止指導に望ましい健診時期は8~10か月、3~4か月、1歳6か月、3歳の順に回答者が多く、乳児期に行う健診が高い支持を受けていた。また、指導回数をみても乳児期の2回の健診（3~4か月と8~10か月）で行うべきという意見が最も多かった。子どもの行動範囲が広がるにつれて保護者の心配りだけで事故を防止することはより困難になってくる⁴⁾ため、保護者への指導時期として乳児期が重要なことは今回の結果からも裏付けられた。清水ら⁵⁾は6か月児健診と1歳6か月健診で事故防止指導の介入研究を行って指導の有無により健診後1年間の事故発生件数を比較したところ、1歳6か月時の指導群では事故件数は非指導群より減少していたものの統計学的有意差がみられなかったのに対して、6か月時の指導群では事故件数が有意に減少していたことより6か月児健診における指導の重要性を強調している。さらに、事故の頻度や内容は子どもの年齢や発達⁶⁾の程度によって変わっていく⁴⁾ため、防止指導の内容も健診の時期によって変えていく必要がある^{5,6,7)}、効果的な事故防止のためには反復指導が不可欠と思われた。

事故防止の指導手段としては講習会形式と安全チェックリストの使用が高い評価をうけていた。講習会形式の評価が高かったのは受身ではなく参加型の実践的知識の習得が有用であるという考えを反映したものと思われた。講習会での実技を通して保護者の事故に対する意識が高まると、保護者の関心は次の段階として事故防止の必要性へと発展していく可能性が指摘されており⁸⁾、講習会は単なる技術獲得のみならず事故防止指導という面からみても有効と考えられた。一方、実際の健診で事故防止の個別指導をじっくり行うためにはマンパ

ワー、時間配分に関して制限があるのも事実で¹⁰⁾、現実に即した人手と時間をかけない対応として安全チェックリスト完全対応パンフレットによる指導の有用性が報告されている³⁾。

現状の事故防止活動に対する保健師の満足度が最も低く、改善要求度が最も強かったのは効果的な指導方法（ノウハウ）の開発であった。そして、89.9%が事故防止の指導方法を学ぶための研究会への参加を希望していた。これらの結果から、保健師は事故防止指導に対して強い意欲を持っているが、具体的な方法がよくわからないため、保護者を前にして効果的な指導を実践できずにいるという現状が推測された。さらに、改善要望の3位に子どもの事故の実態に関する正確なデータが挙げられていたことはサーベイランスの必要性がよく理解されていたことを示すものであるとともに、前述した有効な事故防止プログラムの作成が現場では望まれていたことと密接な関連があると考えられた。何故ならサーベイランス体制の構築により地域の事故の実態を正確に把握することができて、はじめて実状に即した具体的な事故防止戦略の立案が可能となり、さらにサーベイランス事業を継続することで事故防止戦略の有用性が立証可能となり、また戦略の問題点が明らかになることで戦略はより効果的なものへと改善されていくからである。欧米では事故防止センターが事故の調査、研究結果に基づいて事故対策の戦略を策定し、系統だった事故防止活動に国家レベルで取り組んでいる⁴⁾。我々の以前の調査でも子ども事故防止センターの活動内容として指導マニュアルの作成と実態調査が高い支持を得ていた¹¹⁾。従って、わが国においても従来の啓発用ディスプレイ的なものではなく、本来の意味での事故防止センターの一日も早い設立が強く望まれた。

また、保健師の改善要望の2位は一般市民の事故防止の重要性に対する認識であった。諸外国に比較して、わが国の子どもの事故防止対策が遅れている最大の原因は国民の事故に対する意識の低さにあることが指摘されている^{12,13)}。山中¹⁴⁾は子どもの健康にとって最大の脅威は不慮の事故であることと子どもの安全に対して社会が大きな責任を負っていることを認識することの重要性を強調しているが、今回の調査結果からも事故の責任を保護者だけに押しつけるのではなく、社会全体で子どもを事故から守り、子ども達に安全な環境を提供することの重要性が裏付けられた。従って、今後の事故防止活動はこれまでのように保護者だけを対象とするのではなく、一般市民にも訴えていく

必要があり、その情報発信基地として機能しうる事故防止センターの整備が切望された。

事故防止指導を行う指導者として事故防止の講習を受けて指導員の資格をもつボランティアは4位で、6位の保健師より上位に支持されていた。また、保健所の事故防止指導に活動経験をもつボランティアが参加することに賛成の保健師は48.9%だったが、講習を受けて指導員の資格をもつボランティアの参加であれば賛成者は60.2%まで上昇していた。欧米では事故防止プログラムの指導の中心になるのは地域に根ざしたボランティア団体であり、この団体のネットワークをどれだけ構築できるかがプロジェクトの成否を決定するといわれている¹³⁾。よって、ボランティアとの連携は保健師にとっても今後検討すべき重要な課題であり、ボランティアを事故防止指導員として養成し活用することで大きな活動成果をあげることが期待できると考えられた。実際、欧米の事故防止センターには地域のプロモーターを1週間程度で養成するコースがあり¹¹⁾、講習を受けたボランティアが実際の啓発活動を担っている⁴⁾。事故防止活動により国民の意識革命を目指すなら、それは決して保健師の努力だけで達成できるものではなく、職種を越えて認定を受けた多くの事故防止指導員が連携していかなければ実現不可能である。その場合、事故防止活動に携わる種々の職業、団体の連携の調整役¹³⁾としても機能しうる地域の事故防止センターにおいて、事故防止指導員の講習を行うことが望ましいと考えられた。

乳幼児健診以外に事故防止指導を行う場所として子育て支援センター（保育所）が2位に挙げられ、事故防止の指導者として保育士が3位に支持されていた。この結果は保健師が事故防止指導に関しては保育士の協力を期待している可能性を示しており、両者の連携強化は今後の事故防止活動を進める上での一つの方向性を示唆するものと思われた。また、9割前後の賛同を得ていたことから、指導用教材のインターネットでの公開や携帯電話による保護者向けの文字情報サービスも今後検討すべき情報提供の方法と考えられた。

文献

- 1) 田中哲郎、佐原康之。「健やか親子 21」取り組み目標のベースライン作成。平成 13 年度厚生科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書（第 4/7）2002：518-534。
- 2) 佐原康之、井口信子、井口禎士。自治体における子どもの事故防止（予防）対策協議会・事

故防止センター等関する取り組み状況調査. 平成 14 年度厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 報告書 (第 3/11) 2003 : 661-692.
 3) 田中哲郎, 石井博子, 加藤隆司. 健診の機会を利用した事故防止指導—新しい方式の考案とその評価—. 小児科臨床 2001; 54: 1639-1646.
 4) 田中哲郎. 新子どもの事故防止マニュアル. 第 3 版. 東京: 診断と治療社, 2003.
 5) 長村敏生, 清沢伸幸, 鄭 樹里, 他. 子どもの事故防止に対する保護者の意識調査 (第 1 報) —8 か月健診におけるアンケート調査結果—. 小児保健研究 2003 ; 62 : 693-698.
 6) 長村敏生, 清沢伸幸, 鄭 樹里, 他. 子どもの事故防止に対する保護者の意識調査 (第 2 報) —1 歳 6 か月児健診におけるアンケート調査結果—. 小児保健研究 2004 ; 63 : 31-37.
 7) 長村敏生, 清沢伸幸, 鄭 樹里, 他. 子どもの事故防止に対する保護者の意識調査 (第 3 報) —3 歳児健診におけるアンケート調査結果—. 小児保健研究投稿中.
 8) 清水美登里, 梅田 勝, 竜田登代美, 他. 小児の事故防止のための保健指導の試み—保健

所における健診の場を利用して—. 日本医事新報 1992 ; No. 3566, 48-53.
 9) 長村敏生, 椿井智子, 山森亜紀, 他. 出産後入院中の母親への応急処置教育 (第 3 報) —出産 1 年後の応急処置法講演会・心肺蘇生法講習会の有用性に関する検討—. 小児保健研究 2001 ; 60 : 432-439.
 10) 野尻孝子, 由良早苗, 尾崎則子, 他. 保健所における小児の事故防止活動の展開. 小児科診療 1996 ; 59 : 1625-1634.
 11) 長村敏生, 清沢伸幸, 澤田 淳, 他. 子ども事故防止センターの配置に向けて—そのあり方に関するアンケート調査結果から—. 日本医事新報 2003 ; No. 4129, 59-62.
 12) 山中龍宏. 子どもの事故予防対策の要点. 小児内科 2002 ; 34 : 1301-1306.
 13) 長村敏生. わが国は子どもの事故防止後進国. 小児科診療 2003 ; 66 : 1404-1405.
 14) 山中龍宏. 小児の事故は予防できる—目を離しても安全な環境の整備を—. 医学のあゆみ 2003 ; 206 : 686-690.

表1 対象保健師の回答内容（カッコ内は未記入例を除く構成比：％、n=272）

子育ての経験	あり	162 (59.6)	保健師が指導方法を学ぶための研修会があれば、参加したいと思いますか？	はい	241 (89.9)
	なし	110 (40.4)		いいえ	27 (10.1)
事故は子どもの最大死因であることをご存知ですか？	知っている	263 (97.4)	事故防止の指導用教材をインターネットで公開することをどう思いますか？	よい	249 (92.2)
	知らなかった	7 (2.6)		よくない	1 (0.4)
健診での事故防止指導の経験	未記入	2	携帯電話による文字情報サービス(iモードなど)で保護者向けに情報提供することをどう思いますか？	わからない	20 (7.4)
	あり	245 (91.8)		未記入	2
	なし	22 (8.2)		よい	221 (82.8)
保護者への事故防止指導は乳幼児健診でやるのがよいと思いますか？	未記入	5	活動経験をもつボランティアが保健所の事故防止指導に参加することについてどう思いますか？	よくない	4 (1.5)
	はい	246 (96.9)		わからない	42 (15.7)
	いいえ	8 (3.1)		未記入	5
事故防止指導を行うべき健診の時期（重複回答）	未記入	18	講習を受けて指導員の資格をもつボランティアが保健所の事故防止指導に参加することについてどう思いますか？	よい	162 (60.2)
	3～4カ月	174 (67.2)		よくない	6 (2.2)
	8～10カ月	221 (85.3)		わからない	101 (37.5)
	1歳6カ月	137 (52.9)		未記入	3
	3歳	79 (30.5)			
事故防止指導を行うべき健診の回数	未記入	13			
	1回	67 (25.9)			
	2回	91 (35.1)			
	3回	42 (16.2)			
	4回	59 (22.8)			
	未記入	13			

表2 乳幼児健診における指導内容の必要度（カッコ内は未記入例を除いた構成比：％、n=272）

順位	乳幼児健診での指導内容	平均スコア	各選択肢の回答者数				未記入例
			是非必要	必要	あまり必要はない	必要ない	
1	子どもの事故防止の指導	3.54	146 (54.3)	122 (45.4)	1 (0.4)	0 (0.0)	3
2	発達(精神・行動・言語)のチェック	3.49	143 (53.4)	112 (41.8)	13 (4.9)	0 (0.0)	4
3	子どもの歯の衛生	3.34	92 (34.5)	173 (64.8)	2 (0.7)	0 (0.0)	5
4	子どもの基礎体力づくり(運動・生活習慣)	3.33	99 (36.8)	161 (59.9)	9 (3.3)	0 (0.0)	3
5	障害、疾病の早期発見について	3.29	108 (40.1)	134 (49.8)	25 (9.3)	2 (0.7)	3
6	母乳育児のすすめ、栄養指導	3.28	86 (32.1)	171 (63.8)	11 (4.1)	0 (0.0)	4
7	予防接種の勧奨	3.27	79 (29.4)	183 (68.0)	7 (2.6)	0 (0.0)	3
8	赤ちゃんの急病にそなえての注意	3.15	63 (23.6)	182 (68.2)	22 (8.2)	0 (0.0)	5
9	各種医療給付および児童手当の紹介	2.58	20 (7.5)	127 (47.4)	110 (41.0)	11 (4.1)	4

対象が回答した選択肢をスコア化し(是非必要4点、必要3点、あまり必要はない2点、必要ない1点)、各項目毎に算出した平均値を平均スコアとして示した

表3 事故防止の指導手段に対する評価（カッコ内は未記入例を除いた構成比：％、n=272）

順位	事故防止の手段	平均スコア	各選択肢の回答者数				未記入例
			非常に有用	有用	あまり有用でない	有用でない	
1	講習会形式(心肺蘇生法、チャイルドシート使用法、応急手当など)	3.32	108 (40.0)	142 (52.6)	18 (6.7)	2 (0.7)	2
2	安全チェックリスト	3.20	75 (28.2)	169 (63.5)	22 (8.3)	0 (0.0)	6
3	パンフレット	3.02	35 (13.0)	205 (76.2)	28 (10.4)	1 (0.4)	3
4	ビデオ	3.01	43 (16.0)	184 (68.7)	41 (15.3)	0 (0.0)	4
5	教材(小冊子、絵本)	3.00	39 (14.6)	191 (71.5)	35 (13.1)	2 (0.7)	5
6	広報用の新聞または雑誌	2.92	40 (15.1)	166 (62.6)	57 (21.5)	2 (0.8)	7
7	パネル展示	2.90	41 (15.3)	165 (61.6)	57 (21.3)	5 (1.9)	4
8	自宅訪問して直接指導する	2.87	59 (22.1)	128 (47.9)	65 (24.3)	15 (5.6)	5
9	母子手帳	2.86	42 (15.8)	149 (56.2)	69 (26.0)	5 (1.9)	7
10	講演会形式	2.78	24 (9.0)	165 (62.0)	71 (28.7)	6 (2.3)	6

対象が回答した選択肢をスコア化し(非常に有用4点、有用3点、あまり有用でない2点、有用でない1点)、各項目毎に算出した平均値を平均スコアとして示した